平成２７年度
社会福祉法人慈照会事業報告

通所介護事業
短期入所生活介護事業
訪問介護事業
居宅介護支援事業
介護老人福祉施設事業
ケアハウス事業

平成２７年度社会福祉法人慈照会事業報告

１．総　　括

わが国経済は、外国人観光客の増加等を背景にした企業収益の改善と国内消費環境の持ち直しによる緩やかな回復基調が続いたが、アメリカの金融政策、原油価格の下落などの世界経済の影響、円高進行、株式市場の下落等先行き不透明な状況となった。

介護業界においては、わが国の高齢化率が平成２６年には２６．０％に上昇、また平成２６年度の介護給付費が９．７兆円を超える等、その需要が拡大している。平成２７年４月には改正介護保険制度が施行され、地域包括ケアシステムの実現を目指して、中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化、介護人材確保対策の推進、サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築が盛り込まれた。

当法人では、加算体制の整備、同意書等事務手続きを進め、介護保険制度改正に対応した。また、介護職員の準夜手当、深夜手当アップ、土、日、祝日手当を新設し処遇改善を進めた。ホームページをリニューアルし、施設のイメージアップ、職員採用、情報開示を推し進める環境を整備した。昨年度より導入した新人事制度も２年目となり、職員の育成に活用し定着を進めた。労務管理、入居者・利用者の事故対応の備えとして顧問弁護士契約を締結した。前年度インフルエンザが集団発生したことを踏まえて感染症対策に注力し、職員、入居者の一部で発症はあったが、集団感染は防ぐことができた。長年お世話になった特養嘱託医の武地医師が入院し対応に苦慮したが、医師会の協力によりレイメイクリニックの生駒医師に後任として契約いただいた。備品の更新及び環境整備については、ケアハウスを除くエアコンの更新を完了、高圧受電設備の耐用年数に応じた更新、リフト浴機器２台の更新を実施した。

職員体制については、事業所によって状況は異なるが、全体では退職者と入職者はほぼ同数となった。次年度に向けて、新卒２名、中途採用者１名の介護職員を確保できた。

法人創設以降の借入金について、役職員の努力により借入金の返済が完了し、大きな節目の年となった。重点目標の取組みについては以下の通りである

（１）　職員教育体制の充実とキャリアパスへの取り組み

リスクマネジメント強化のため弁護士による契約施設合同の定期勉強会に参加した。委員会活動等を通じて職員教育を強化したい。新人事制度２年目となり、Ｄｏ－ＣＡＰシートによる目標管理、人事評価も昨年よりスムースに進み、育成に活用できた。

（２）　人材確保と働きやすい職場づくり

職場説明会、見学会を３回実施し、施設、介護の仕事を理解してもらう良い機会となった。職場環境改善のため、安全衛生管理者による職場巡視を開始した。

（３）地域交流と貢献

東近江介護サービス事業者協議会会長、滋賀県介護サービス事業者協議会連合会役員として年間を通じて活動し、地域貢献とネットワーク強化を進め、新たな知識見識を職員に提供した。滋老協を通じて縁ぇにし創造実践センターに参画した。東近江市の人材確保事業に参画し、「これからの介護」のパンフレット作成に協力した。

２．事業別報告

【通所介護事業】（定員：通常規模型３０名、認知症対応型１２名）

新規利用者は３７名（昨年比１０２．７％）、一日平均利用人数は、通常規模型（予防含む）２５．９名、認知症対応型２．５名、計２８．４名（昨年比１０２．１％）と昨年を上回った。

収入目標、通常規模型 67,000,000 円、認知症対応型 11,000,000 円は、合計額では達成した。

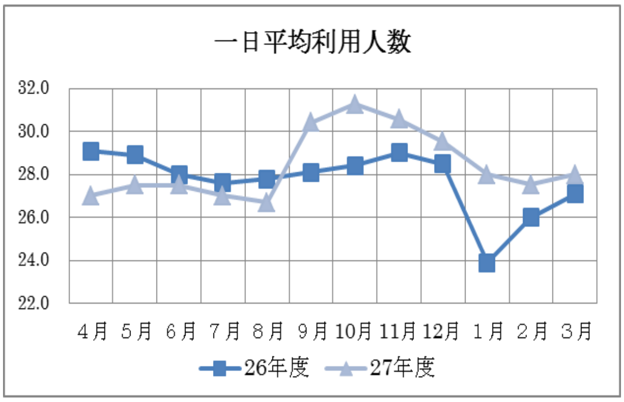
重点目標：ご利用者の潜在能力を引き出せる取組み

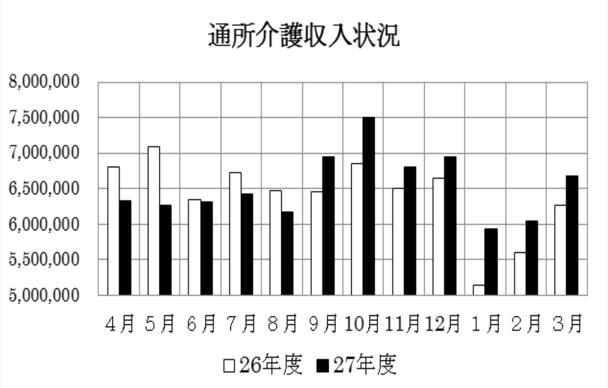
午前の趣味活動の充実、リハビリの定着と個々に合ったリハビリの実施、認知症対応型のタイムスケジュールの作成、認知症ケアのスキルアップを進める。

結 果： 午前中に簡単なゲームを取り入れ、熱心にされるご利用者も多く、今後の更なる取組を考えていきたい。リハビリについては、担当スタッフを付けて取り組んだが、人員等により実施できない日もあった。認知症ケアには十分な取り組みはできなかった。

利用状況

	営業日数	利用実人員	新規利用者	一日平均利用人数			
				介護予防	認知症対応型	通常規模	合　計
4月	26	83	1	3.2	2.4	21.5	27.1
5月	26	87	6	3.4	2.5	21.5	27.4
6月	26	89	3	3.6	2.4	21.5	27.5
7月	27	87	2	3.4	2.5	21.0	26.9
8月	26	86	2	3.2	2.4	21.0	26.6
9月	26	95	8	3.0	2.3	25.1	30.4
10月	27	96	3	3.3	2.4	25.5	31.2
11月	25	95	1	3.6	2.6	24.4	30.6
12月	26	96	3	3.1	2.7	23.7	29.5
1月	24	87	2	3.3	2.7	22.0	28.0
2月	25	85	3	3.2	2.4	21.9	27.5
3月	27	85	3	3.3	2.4	22.3	28.0
年間	311	89.3	37	3.3	2.5	22.6	28.4





【短期入所生活介護事業】（定員：１６名）

新規利用者は４７名（昨年比６７．１％）、一日平均利用人数は１６．１名（昨年比９２．０％）となり昨年を大きく下回る利用状況となった。特養の入院が少なかったこと、職員数が不足した時期に受け入れを抑えたことが影響した。収入目標 85,000,000 円も未達成であった。

重点目標：ご利用者の立場に立ち、笑顔で優しさと思いやりのある介護を行う

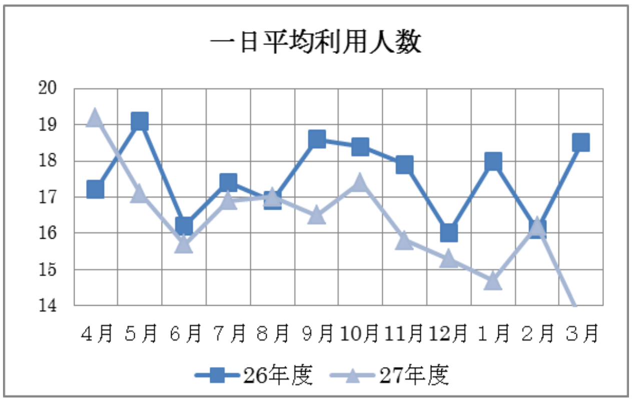
① 安心して利用してもらうには、職員の親切、丁寧な対応、言葉遣いが重要であり、向上を進める。

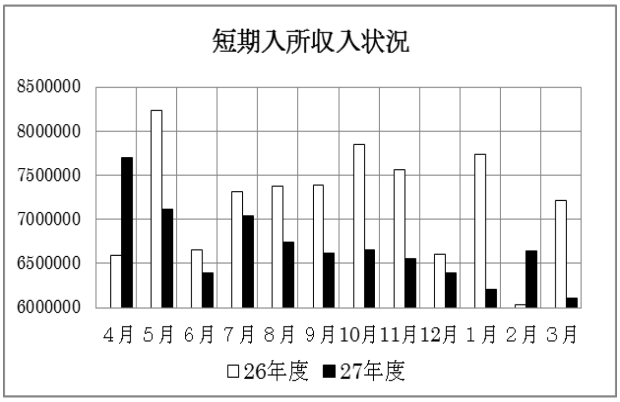
② 自身の態度、会話を客観的にみることによって、職員間のコミュニケーションについて見直し、職員の連携、倫理の向上に努める。

結　果：親切丁寧な言葉遣いで対応するような意識付けはできたが、どうしても業務に追われる時などは利用者の言葉に十分に耳を傾けることができなかった。また、利用者に嫌われる言葉や喜ばれる言葉などを個々に考え、皆で話し合うことができた。介護職員による自己チェック表を上半期、下半期に行い、自分自身のコミュニケーションを振り返る良い機会ができた。

利用状況

月	新規利用者	利用実人員	一日平均利用人数	ベッド稼働率（%）
4 月	3	76	19.2	119.8
5 月	3	69	17.1	107.1
6 月	2	66	15.6	97.7
7 月	7	73	16.9	105.4
8 月	3	72	16.2	101.0
9 月	1	73	16.3	101.7
10 月	5	75	17.4	108.5
11 月	1	69	15.8	98.5
12 月	7	69	14.6	91.7
1 月	8	67	14.7	91.7
2 月	2	67	16.1	100.9
3 月	5	67	13.6	85.1
年間	47	843	16.1	100.8





【訪問介護事業】

新規利用者４４件（昨年比１１５．７％）、延訪問件数は１２，４３３件（昨年比１０４．６％）と昨年を上回った。収入目標 35,000,000 円は達成した。

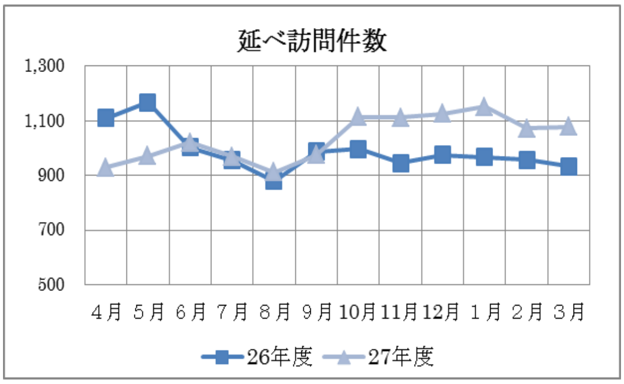
重点目標：在宅サービスを支えるプロのサービスの徹底

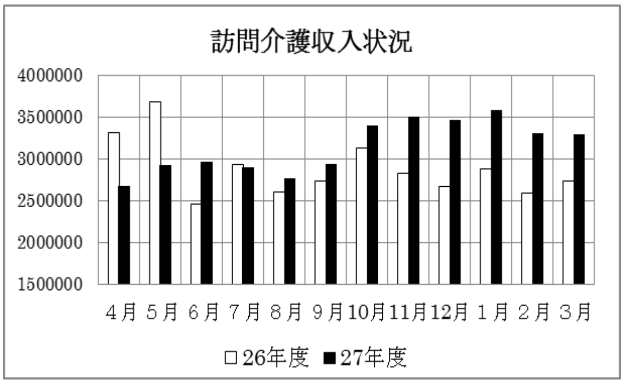
介護保険制度改正の内容をしっかり理解し、適切な対応をする。サービスの標準化の徹底に努め、ケアレスミスをなくす。ご利用者からの困難な要望には適正な判断対応をできるようにする。報告、連絡、相談を徹底する。

結　果：介護保険制度改正についてはご利用者への周知徹底に努め、理解してもらえるように心がけた。サービスの標準化は絶対に崩してはいけないことであり、その都度話す機会を持った。同行訪問も双方が納得いくまでとしたが、ご利用者には困難と思われる人が多く、関わり方が難しく苦心した。報告、連絡、相談を徹底した割にはケアレスミスが多かった。

利用状況

月	予防		介護		予防＋介護	
	利用実人員	延訪問件数	利用実人員	延訪問件数	利用実人員	延訪問件数
4 月	21	122	40	808	61	930
5 月	20	103	46	869	66	972
6 月	20	108	47	913	67	1021
7 月	21	119	49	850	70	969
8 月	21	122	50	789	71	911
9 月	23	134	53	841	76	975
10 月	21	128	54	987	75	1115
11 月	21	108	57	1004	78	1112
12 月	20	118	55	1008	75	1126
1 月	16	86	61	1066	77	1152
2 月	19	92	57	980	76	1072
3 月	18	100	58	978	71	1078
年間	241	1340	627	11093	863	12433





【居宅介護支援事業】

新規利用者が２８件（昨年比８２．３％）、年間プラン件数は１，１６４件（昨年比９４．４％）と昨年を下回った。９月にようやく欠員となっていたケアマネ１名が加入した。収入目標12,410,000円は未達成であった。

重点目標：介護報酬に即し、“生活を診るプロ”である介護支援専門員としてのプラン作りをめざす

① 医療連携：認定更新３ヶ月前から主治医にプランを提出し連携等確認する。

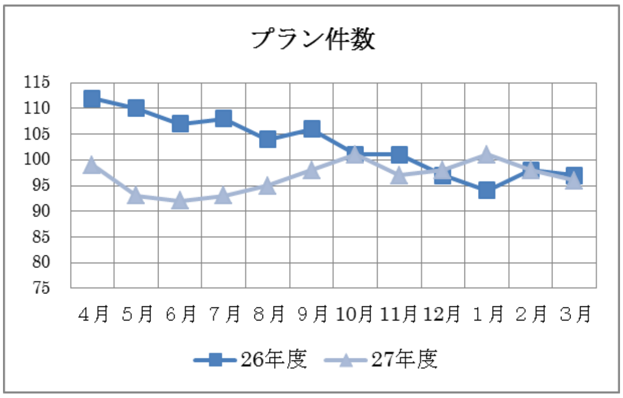
② 表現強化：目標は数値化・具体化し、達成度の測定を意識する。

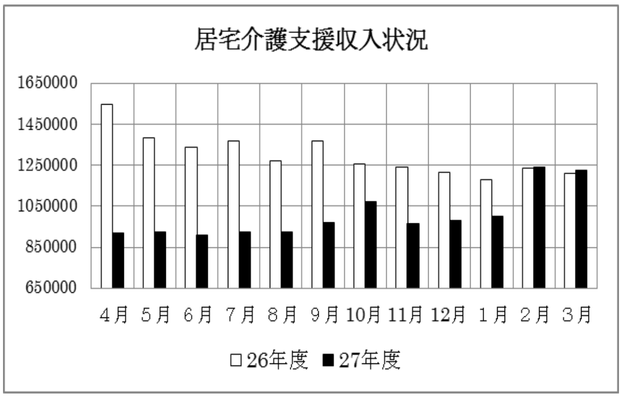
③ 発信強化：大会、学会へプランを提出する。

結　果：①認定更新３ヶ月前の主治医訪問はようやく開始し、連携を進められた。②アローチャート研修は進んでいるが、表現の数値化・具体化での測定は課題が残っている。③滋賀県介護支援専門員研究大会、近畿大会への発表を行い、強化することができた。他、新たに１名のケアマネが加入、引き継ぎにより、整理整頓と無駄な業務洗い出しが進んだ。

利用状況

月	新規利用	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
4月	3	6	17	31	22	13	8	2	99
5月	4	7	16	29	21	12	8	2	95
6月	0	5	15	29	23	11	8	2	93
7月	3	6	15	30	24	7	9	3	94
8月	3	8	14	31	24	7	8	4	96
9月	3	8	15	30	25	7	9	4	98
10月	2	7	14	31	25	9	9	4	99
11月	2	9	14	30	24	8	8	4	97
12月	1	9	14	29	24	11	7	4	98
1月	3	8	13	33	25	11	7	4	101
2月	2	8	13	31	24	10	8	4	98
3月	2	8	13	31	20	12	8	4	96
年間	28	89	173	356	281	118	97	41	1164
月平均	2.3	7.4	14.4	30.4	23.4	9.8	8.1	3.4	97.0





【介護老人福祉施設事業】（定員：５４名）

一日平均在居人数は、５１．６名（昨年比１０３．４％）となり昨年を上回った。２月に武地医師が入院し、３月より嘱託医師をレイメイクリニックの生駒医師に変更した。収入目標194,000,000円は達成した。

重点目標：けが、事故へのリスク軽減を図り、入居者にとって安全、安心、安楽な環境の提供を目指す。

① 福祉用具の積極的な活用を行い、入居者、職員にとってやさしい介護を行う。

② ヒヤリハット、事故報告を活かし、予測的な対応力を高めるとともに生活環境の見直しにつなげる。

結　果：福祉用具の活用においては、使用する場面は増えたが、積極的な活用とまではいかなかった。けが、事故へのリスク軽減に繋がるよう、ケア改善委員を中心に、毎月ヒヤリハット報告、事故内容の分析を行い、特養会議にて振り返る機会を持った。以前に比べ、スタッフ個々の意識の改善には繋がったが、対応策の周知徹底が不十分であり、同じ方の同様な内容の報告が続いたのは課題である。

平成２８年３月３１日現在

入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入居	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7
退居	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	6
在籍者数	53	54	55	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54.0
在居人数	49.4	49.6	52.8	52.7	52.5	52.4	51.4	51.7	52.8	51.5	51.1	50.7	51.6

入居者在居期間

	男性	女性	平均
平均在居期間	26.5	45.3	43.9

在居期間	男性	女性	計	構成比（%）
１年未満	1	6	7	13.0
１年以上２年未満	2	10	12	22.2
２年以上４年未満	0	14	14	26.0
４年以上６年未満	1	13	14	26.0
６年以上８年未満	0	3	3	5.5
８年以上１０年未満	0	1	1	1.8
１０年以上	0	3	3	5.5
合　計	4	50	54	100.0

入居者年齢状況

年齢	男性	女性	計	構成比（%）
７０～７４歳	0	1	1	1.8
７５～７９歳	0	3	3	5.6
８０～８４歳	2	10	12	22.2
８５～８９歳	2	12	14	25.9
９０～９４歳	0	11	11	20.4
９５～９９歳	0	11	11	20.4
１００歳～	0	2	2	3.7
計	4	50	54	100.0

	男　性	女　性	全　体
最高年齢	88	102	102
最低年齢	80	73	73
平均年齢	83.3	88.9	88.5

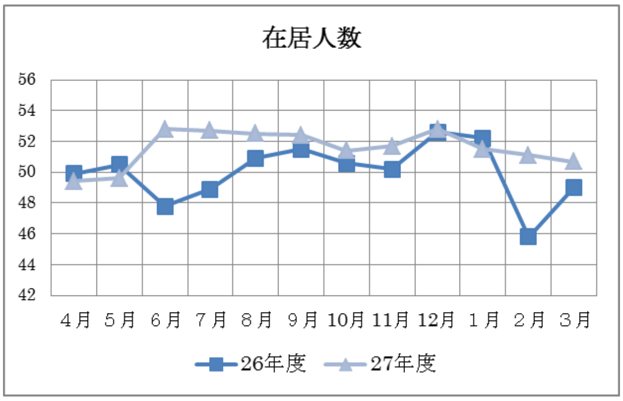
要介護度別入居者状況

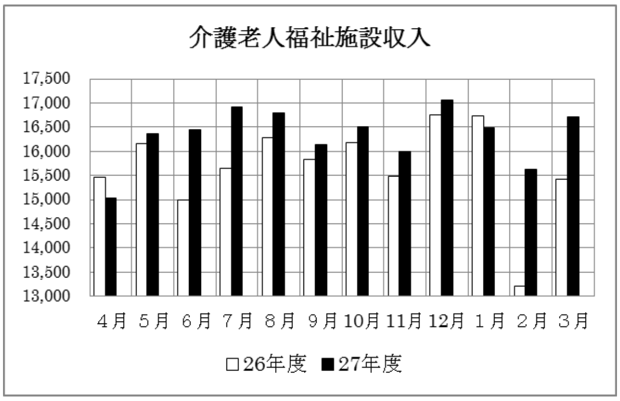
	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
入居者数	6	13	16	13	6	54
構成比（%）	11.1	24.1	29.6	24.1	11.1	100.0

平均要介護度　3.00

待機者数

要介護度	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
人数	12	22	70	76	43	223
構成比（%）	5.4	9.9	31.4	34.1	19.2	100.0





【ケアハウス事業】（定員：１５名）

５月で満床となり年度終盤まで満床維持出来たが、２月の退居後新規入居者を迎え入れる事が出来ず、３月のみ１室空きが出来た。施設見学者は１５名となったが、年度末待機者は個室１名のみであった。

重点目標：満床の維持と待機者確保、重度化予防

機能（身体、認知）低下予防の充実、健康管理の強化、外部広報活動、館内の雰囲気作り、職員のスキルアップを進める。

結　果：重度化予防の為、年間を通して、日々の体操や趣味活動に力を入れ、体調維持等に効果あるとの声が聞かれた。外部広報活動としてホームページへの宣伝は実施に至らなかったが、ケアマネ、行政への空き情報等の提供に努めた。館内においては、清掃は勿論、カーテンの更新を実施し、雰囲気作りにも力を入れた。

平成２８年３月３１日現在

入退居状況

項目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	年間
入居	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
入居者数	13	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	―

平均入居年数　男性　２年８ヵ月　女性　４年１ヵ月　　全体　３年６か月

入居者年齢状況

年　齢	男　性	女　性	計	構成比（%）
65～69歳	0	0	0	0.0
70～74歳	0	1	1	7.1
75～79歳	1	1	2	14.3
80～84歳	1	1	2	14.3
85～89歳	2	1	3	21.4
90～94歳	1	5	6	42.9
95～99歳	0	0	0	0.0
100歳～	0	0	0	0.0
合　計	5	9	14	100.0

最高年齢　男性　　90歳　　女性　　94歳

最低年齢　男性　　79歳　　女性　　73歳

平均年齢　男性　86.0歳　　女性　87.1歳　　全体平均　86.7歳

入居者要介護度

介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	6	1	1	3	2	0	1	0	14
構成比（%）	43.0	7.1	7.1	21.4	14.3	0	7.1	0.0	100.0

待機者：　個室　１名　　２人部屋　なし

３．その他事業

【配食サービス】

営業日数３１１日（昨年比１１３．９%)、食数１３７２食（昨年比２１３．３%)、一日平均４．４食（昨年比１９１．３%）であった。

【委員会活動等】

（研修教育体制チーム）　会議開催数４回

施設内研修会を１２回実施。新テーマとして株式会社ノーブレイクの中村氏と協働し排泄ケア研修（連続４回）を実施。１１月に職員月間 MVP を実施。

（事故、苦情防止委員会）委員会開催数５回

労働安全衛生の観点から、全事業所参加型に変更した。月間の事故、苦情分析を周知。要望・苦情取組強化月間実施。リスクマネジメント研修、交通安全 DVD 研修を実施。

（環境整備委員会）　委員会開催数１回

環境整備として、エアコンフィルター清掃、除草作業、窓ふきの計画実施。感染症予防として、施設内ポスター掲示。職員交流会として、夏祭り打ち上げ、法人忘年会の計画実施。

【月間 MVP】

お互いを認め合う職場づくりとして月間ＭＶＰを実施。

テーマ「褒めたい職員」　期間：１１月１日～３０日

最優秀者１名　優秀者１名　最多投票者１名表彰

【衛生委員会】

10 月に義務付けとなるメンタルチェック体制について確認した。２月には１月実施の労働基準監督署是正勧告及び指導をテーマとした。３月より衛生管理者による職場巡視を開始した。

４月	年間計画及び議題について	10 月	メンタルヘルスについて
５月	福利厚生について	11 月	感染症対策について
６月	食中毒について	12 月	健康管理について
７月	熱中症について	１月	施設内環境について
８月	腰痛対策について	２月	労働基準監督署是正勧告及び指導
９月	防災について	３月	交通安全について

【消防・防災】

消防署立会の総合訓練を１回、夜間想定訓練を１回実施したが、回数が少なかった。２回の消防設備点検を実施した。

【職員研修】

外部研修及び会議に延１８１名を派遣するとともに、施設内研修会を実施した。

※施設内研修会

実施日	テーマ	講　師	参加者数
４月１～６日	新人職員入社時研修	法人職員	２名
５月１７日	普通救命講習	東近江行政組合八日市消防署救急係	１９名
５月２８日	脱水・肺炎を防ぐための水分補給研修会	株式会社明治　田中紗世氏	２２名
６月９日	排泄ケア研修会Ⅰ	クローバー　中村真理氏	３２名
７月１４～２１日	食中毒予防ＤＶＤ研修		７５名
７月２１日	排泄ケア研修会Ⅱ	クローバー　中村真理氏	２８名
８月１９日	人権研修会	田中　寛氏	２６名
９月１日～１０日	交通安全ＤＶＤ研修		７６名
９月１５日	リスクマネジメント研修Ⅰ	クローバー　中村真理氏	３０名
９月２４日	排泄ケア研修Ⅲ	クローバー　中村真理氏	２２名
１０月２０日	排泄ケア研修Ⅳ	クローバー　中村真理氏	１８名
１１月１７日	感染症予防について	サラヤ株式会社スタッフ	３７名
２月１７日	職員育成計画研修会	エイデル研究所　鷹木大輔氏	６名
３月２日	接遇研修	株式会社ツクイ　中川清隆氏	５名
３月１５日	身体拘束廃止研修	滋賀県介護福祉士会　村田美穂子氏	２６名

【地域交流・貢献等】

地域行事を実施、参加、各種団体との交流を通じて、地域交流、地域貢献を進めた。新たに職場説明会、見学会を複数回実施した。

日　付	内　　容	参加者数
６月２４日	建部幼稚園交流会	５９名
７月　８日	建部民協会議	１２名
８月　２日	カルナ納涼夏祭り	３５０名
９月２０日	カルナ敬老会	２００名
９月２７日	すみれ保育園運動会	８名
９月２７日	第８回建部あったかネット訓練	５名
１０月３日	建部幼稚園運動会	５名
１１月１２日	建部幼稚園交流会	５０名
１１月１２日	職場見学会（ツクイ）	６名
１１月２４日	職場説明会（ハローワーク）	１９名
３月１０日	福祉の職場見学会（東近江市役所）	２０名

【講師派遣、事例発表等】

日　付	内　　容	派遣・参加人数
９月１５日	びわこ学院大学就職説明会及び模擬面接会	１名
１０月３１日	第 11 回滋賀県介護支援専門員研究大会	１名
２月１９日～２０日	第 15 回近畿介護支援専門員研究大会京都大会	１名

【ボランティア、実習生の受け入れ】

学校関係より２３名の実習生を受け入れした。また、多くの団体、個人のボランティアの皆様にご支援とご協力を頂いた。

実　習

＜学校関係＞

◇ 聖徳中学校　職場体験学習　２名

◇ 滋賀学園高校　介護福祉現場実習　１７名、

◇ びわこ学院短大　介護福祉士養成コース　施設現場実習　４名

ボランティア

＜団体＞

◇ すみれ会（大正琴）　◇ 二胡っ娘（二胡演奏）　◇ サルビア会（オカリナ演奏）

◇ 公益社団法人顔と心と体研究会（リハビリメイク）　◇ さくら会（日本舞踊）

◇ さわやかクラブ（歌謡）　◇ ひまわり会（喫茶・敬老会）

◇ 杉の子会（夏祭り）　◇ 湖東信用金庫（夏祭り）　◇ 滋賀銀行（夏祭り）　◇ 中島商事（夏祭り）

◇ ワークホームズ（夏祭り）　◇ ライフテックミツダ（夏祭り）

◇ 建部民生児童委員（除草作業・夏祭り）　◇ 建部日本赤十字奉仕団（除草作業・窓拭き）

◇ 江頭　翼様／ＮＢＣ／アロハフラ・ファクトリー（歌謡・バレエ・フラダンス）

◇ びわこ学院大学茶道サークル（お茶会）

＜個人＞

◇ 大江昌巳様（ハーモニカ演奏）　◇ 松田俊二様（ホルン演奏）　◇ ｙｏｋｋｏ様（手話うたライブ）

◇ 髙橋紀子様（メンタルヘルスケア）

４．年間行事等

４月	１日職員会議 １６日第１回経営会議	10月	９日入居者健康診断 １３日夜間想定訓練 １５日第７回経営会議 １５日第２回食事会（Ｂグループ） １６日職員健康診断 ３０日インフルエンザ予防接種
５月	８日消防設備機器点検① ２１日総合避難訓練 ２１日第２回経営会議 ２６日監事監査 ２７日評議員会、理事会（事業報告、決算） ２７日第１回食事会（Ａグループ）	11月	４～２５日文化月間（展示） 　９日消防設備機器点検② １０日消防署立入 １１日滋老協研究大会（２名参加） １９日第８回経営会議 １９日第２回食事会（Ｃグループ）
６月	１０日第１回食事会（Ｂグループ） ２２日第３回経営会議	12月	５日建部日赤窓拭き作業 １７日第９回経営会議 １７日法人忘年会
７月	２日評価者会議 １１日建部民協中庭剪定奉仕作業 １５日第４回経営会議 １６～１７日近畿老人福祉施設研究協議会 　　　神戸大会（５名参加） ２３日第１回食事会（Ｃグループ） ２５日建部日赤除草奉仕作業	１月	１日年賀式 ２２日第１０回経営会議 ２８日東近江労働基準監督署訪問
８月	２日カルナ納涼夏祭り 　５日夏祭り打ち上げ １９日第５回経営会議	２月	１８日第１１回経営会議 ２３日マグロ解体ショー
９月	７日第２回食事会（Ａグループ） １６日第６回経営会議 ２０日カルナハウス敬老式典	３月	２日第２回評議員会、理事会（役員改選） １４日夜勤者健康診断 １７日第１２回経営会議 ２２日監事監査 ２５日第３回評議員会、理事会（事業計画、予算）

※その他施設内会議

スタッフ会議（週１回）　デイショート会議（月１回）　ヘルパー会議（月１回）

居宅介護支援事業所会議（月１回）　特養会議（月１回）　ケアハウス会議（月１回）

事務会議（月１回）　給食会議（月１回）